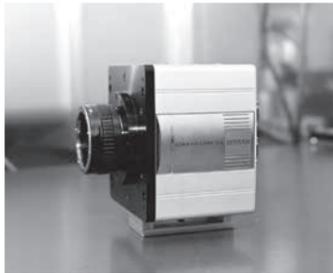




ビットラン株式会社

ニッチなニーズに特化した技術力



私たちが市販のカメラで漆黒の宇宙に光り輝く星や色鮮やかな星雲などを撮影しようとしてもうまく撮影することはできません。今月は、そんな美しい天体を撮影することのできるカメラを開発・製造しているビットラン株式会社をご紹介します。

同社は昭和52(1977)年に企業などから特定のシステムやソフトウェアの開発を受託する会社として創業しました。その後、コンピュータを開発する際に使用するデバッグツール(電子基板で試験を行う不具合を見つけるツール)の開発・販売を行っていましたが、各メーカーなどの安価なデバッグツールの普及に伴い事業を縮小。電子機器へのノウハウを生かして、平成7(1995)年から新たに天体用カメラの開発・製造へと事業を拡大しました。

同社が開発・製造するカメラはイメージセンサーを冷却してノイズを低減することで、天体撮影や科学研究などの長時間露光が必要な分野でもきれいに撮影することができると好評です。代表取締役の松岡さんによると「ニッチ・狭い分野や隙間の意(な)な事業なので、競合がいなく、市場が小さい」とのことしかしながら、こうした同社の高い技術

力で作られるカメラが天文学や科学研究などを陰から支えています。

また、社員7人と少数精鋭の技術者集団で、迅速な判断と対応の他、機器の開発や実験などもスピーディーに行うことができ、顧客からのニーズに柔軟に対応しています。こうした同社の対応力や技術力が評価され、現在は東京大学理学系研究科天文教育研究センターが進めているTAO計画(赤外線望遠鏡をチリに建設)にも携わっています。この計画は銀河宇宙の起源や惑星物質の起源を探るもので、その調査・研究に同社の天体用カメラが使用されるそうです。さらに、宇宙航空研究開発機構(JAXA)が進めるスペースデブリ(宇宙ゴミ)の観測にも同社のカメラが使用される予定です。

今後の目標について、松岡さんは「今までの事業を継続していきながらも、広く浅い分野ではなく、ニッチで深く深い分野に力を入れていきたい」と語ってくれました。同社は顧客第一の精神の下、限られたニーズの中で社員の持つ技術力を生かした優れた製品を開発、提供し、これからも新たな科学の発見を陰から支え続けていきます。

会社プロフィール

代表取締役 **松岡 利明**

【事業内容】 冷却カメラシステム、マイクロプロセッサ開発支援装置、電子応用機器の開発・製造および販売

【所在地】 持田 2213

※このコーナーで紹介する会社を募集しています。特色ある業務を行っている会社の情報を広報広聴課(内線318)までお寄せください。

俳句壇田

ぎょうだはいだん

厨房の朝は早し柿若葉

【句評】 朝早くから食事の用意をするために厨房に立つそれは母であり、妻であり、あるいは本人であるかも知れない。いずれにしても用意をしてくる人がいるからつらなく、一日がスタートするのである。窓の外には柿若葉が光彩を放っている。人間の営みと自然の息吹が一句の中で溶け合い清々しい気分させる一句である。

終活の兄より届く春の服

【句評】 近年使われるようになった終活という一語はなんとかわびしい響きを覚える。就活をもじって生まれた言葉であろうが、人生終盤を迎える誰かが避けて通れない現実でもある。兄から譲られた春の服を前にした作者の心境をおもえばかかと複雑である。掲句は作者の主観を省いて客観のみで捉えた一句であるが、読者にさまざまな問題提起をしているように興味深い。

まほろばの古墳はさくらまたさくら

【句評】 さきたま古墳群は行田市が全国に誇る古代史跡である。近年特別史跡にも指定され、作者のいうようにまさに「まほろば」かも知れない。特に日本最大級の円墳とされる丸墓山古墳の天辺に咲く桜は見事である。5月初めに開催される「さきたま火祭り」ことにもしばし飛鳥絵巻がこの地に展開される。掲句を見れば誰しも一度は行ってみたいだろう。

鐘楼の礎石染めたる桜葉

【句評】 五月晴ガザの涙は海越えて花祭り稚児行列の後につく

【句評】 涅槃西風みんな宇宙の塵となる

野良猫の背にひとひらの花の屑

【句評】 硬すぎる蕎麦殻枕明易し

矢場 島田 健治

柵田町 川鍋 幽覚

小見 三宅 典之

緑町 松林 真弓

忍 伊藤 誠一

富士見町 江利川 敏夫

下忍 荒井 壬子

(三沢一水 選評)

俳句応募方法

一人3句以内。住所・氏名(ふりがな)・電話番号を明記の上、はがきまたは封書で広報広聴課まで。※毎月末日必着

なお、「一部添削して掲載する場合がありますが、不要であれば「添削不要」と記載してください。

門井町 宮田 淑尚

藤原町 斎藤雄次郎

渡柳 大西 道子

矢場 島田 健治

柵田町 川鍋 幽覚

小見 三宅 典之

緑町 松林 真弓

忍 伊藤 誠一

富士見町 江利川 敏夫

下忍 荒井 壬子

(三沢一水 選評)

来て! 見て!

図書館

と し ゃ かん

開館時間

午前9時～午後7時

休館日

6月 2日(月)・3日(火)・9日(月)・
16日(月)・23日(月)・30日(月)・
7月 1日(火)・7日(月)・14日(月)

※休館日の図書館の返却はブックポストをご利用ください。

●市立図書館●

佐間3-24-7(「みらい」内)

TEL:556-4227

FAX:555-3770



第71回青少年読書感想文全国コンクール課題図書の出し出しを一部制限します

夏休みは課題図書の利用が多くなります。より多くの方に利用していただくため、次の期間は課題図書の出し出しを制限します。

なお、小学校の部の課題図書は貸し出し用の他、館内閲覧用として特集コーナーに展示します。

- ▶ 期 間 8月31日(日)まで
- ▶ 対 象 第71回青少年読書感想文全国コンクール課題図書
- ▶ 貸出期間 原則1週間

令和7年度 読み聞かせボランティア養成講座(科学絵本をたのしもう)

- ▶ 日 時 7月12日・19日の各土曜日午前10時～正午
- ▶ 場 所 中央公民館第2学習室
- ▶ 内 容 科学絵本を中心に実践を交えながら読み聞かせについて学ぶ。
- ▶ 講 師 小野寺り子さん(おはなしボランティア指導者)
- ▶ 対 象 次の全てに該当する方
 - ・ボランティア活動を希望する方
 - ・2日間の講座に参加可能な方
- ▶ 定 員 10人程度(先着順)
- ▶ 申し込み 6月24日(火)～7月4日(金)に行田市電子申請・届出サービス、直接、電話のいずれかの方法により図書館



電子申請・届出サービス

雑誌リサイクル市を開催します

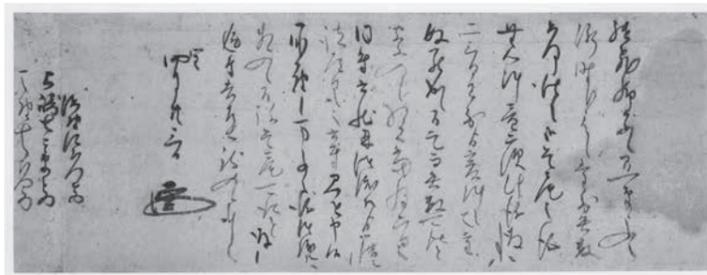
- ▶ 日 時 6月28日(土)～29日(日)午前9時～正午
- ▶ 場 所 「みらい」談話コーナー
- ▶ 内 容 保存期間(2年間)が経過した雑誌を1冊50円で販売します。
- ▶ そ の 他
 - ・雑誌を持ち帰る袋をご用意ください。
 - ・支払いは現金のみ
 - ・申し込み不要

行田歴史系 375

忍藩弓術師範・海野景充と阿部正能の絆

資料がかる行田の歴史

75



海野仁左衛門(景充)に通し矢の成績を尋ねる阿部正能の自筆書状(郷土博物館所蔵)

海野景充は信州真田庄を拠点にした真田一族として勢力をもった幸隆の弟・海野能登守幸景を祖先に持つと伝わる日置流雪荷派弓術の使い手です。景充は江戸時代前半に当たる正保2(1645)年に忍藩主の阿部忠秋に召し抱えられ、阿部家臣団の弓術師範を務めました。後に忠秋から家督を相続する正能は、青年期より景充から弓術の教えを受けて

います。ちょうどその頃に正能が景充に宛てた直筆の書状から両者の絆を紐解いてみましょう。

とある年のうるう4月23日に正能が景充に宛てた書状を見ると「ようやく実施された堂前(通し矢)の矢数はいかがであったか。首尾が気になって昼夜ともこのことばかりを考えている。後日、その首尾を聞かせてほしい」と書かれています。通し矢(堂射・堂前)は、京都の蓮華王院(三十三間堂)の本堂西側の軒下(長さ約121メートル)を南から北に矢を射通す弓術の競技のことです。

景充は、正保2年に江戸浅草の三十三間堂、そして明暦2(1656)年うるう4月17日に京都の三十三間堂において、それぞれ通し矢に参加しています。諸条件を踏まえると、先の書状は、明暦2年に景充が参加した通し矢の直後に正能が出した書状と推定されます。

この書状で正能は、通し矢をやり遂げた景充に対し、気になって仕方がないので当日の矢数成績を尋ねています。年齢も比較的に近い両者が、次期藩主と藩士、そして弓術における弟子と師匠という強い絆で結ばれていたことが、直筆の書状からも伝わってきます。

(郷土博物館 澤村怜薫)